

令和4年度 学校に関する自己点検・自己評価結果と今後の対策

3：あてはまる 2：ややあてはまる 1：あてはまらない

項目	評価項目	R3評価	R4評価	R4平均	評価
教育理念・目的・目標	1. 教育理念・教育目的は、養成所の特徴を示し、学生の学習指針になっている。	2.8	2.94	2.86	2.75
	2. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保証するために、どのような教育内容・方法・環境をとるのか述べている。	2.8	2.81		
	3. 教育理念・教育目的は学生の指針となり、卒業時点において、もつべき看護師の資質を保証するものとなっている。	2.9	2.87		
	4. 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性があり、具体的で実現可能なものとなっている。	2.9	2.88		
	5. 看護実践者として、成長を促す側面や卒業後の継続教育の考え方を示した教育目標を設定している。	2.8	2.81		
<p><点検結果と今後の対策> 教育理念・目的・目標を各職員が理解し、教授活動は行えている。学生への提示も便覧に掲載することで伝達でき、意識できるようになっている。また、カリキュラム改正時に話し合いを設けたことでそれぞれが理解を深め、教育内容、教育方法、教育環境を考えながら自己の教育を考えることにつなげることができている。職員それぞれが意識し行動することで、学生にも伝わりやすいと考える。</p>					

	(教育課程)	R3評価	R4評価	R4平均	評価	
教育活動	1. 編成された教育課程を教職員全体で教育理念・目的の達成に向けて一貫した教育実践・評価を行っている。	2.7	2.63	2.75	2.75	
	2. 看護学の内容、学修の到達、学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.7	2.81			
	3. 科目と単元の構成・考え方は、根拠をもち、教育理念・目的・目標と整合性がある。	2.5	2.75			
	4. 構成した科目は、養成所の特徴をあらわし看護師を養成するのに妥当である。	2.7	2.81			
	5. 看護師になるための質を維持できる履修科目であり、学生の単位履修を支援するものとなっている。	2.8	2.83			
	6. 単位認定の基準・方法は、看護師に必要な学修を認めるものとして妥当であり、他の高等教育機関と単位互換が可能である。	2.7	2.94			
	7. 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	2.5	2.50			
	(看護実践体験の保障)		R3評価	R4評価		R4平均
	8. 臨地実習施設は養成所の教育目的・目標を理解し、学習支援体制を整えている	2.7	2.58	2.78		
	9. 臨地実習の学びを保障するために、実習指導者・教員の役割を明確にし、協働体制を整えている。	2.7	2.75			
	10. 対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、指導を計画的に行っている。	2.9	2.83			
11. 学生に関する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	2.8	2.94				

	(授業内容の一貫性、看護学としての妥当性、授業内容間の関連性)	R3評価	R4評価	R4平均	評価		
教育活動	12. 授業内容は教育課程と一貫性がある。	2.8	2.94	2.78	2.75		
	13. 授業内容は看護学としての妥当性がある。	2.9	3.00				
	14. 授業内容間の整合性、発展性が明確になっている。	2.5	2.42				
		(授業の展開過程)	R3評価	R4評価		R4平均	
	15. 授業形態は授業内容に応じて選択し、授業展開を授業計画に明示して学習支援をしている。	2.7	2.92	2.71			
	16. 学生の学習が発展するための学習支援を明確にしている	2.6	2.50				
		(評価とフィードバック)	R3評価	R4評価		R4平均	
	17. 評価計画・結果に基づいて授業を改善している。	2.7	2.75	2.60			
	18. 教育目標の達成状況を多様な評価方法で多面的に把握している。	2.5	2.42				
	19. 単位認定の評価基準・方法を示し、公平性が保たれている。	2.6	2.63				
		(学習の動機づけと支援)	R3評価	R4評価		R4平均	
	20. シラバスの提示や学習への指導は、一貫性があり学習への動機付けとなっている	2.7	2.75	2.75			
	<p><点検結果と今後の対策></p> <p>今年度より新カリが開始となり、実際に教育していく中で目標に向け一貫した教育実践から評価へと考える必要性を感じ、足りない部分が見えてきたと考える。これは各職員が話し合いを進めていく中で課題として意識したと思う。これからも話し合いを続けていく中で一つ一つ明確にしていく必要がある。評価も各科目ごと個人の采配ではなく、統一できるところは統一するよう話し合いを進めているため、今後も続けていきたい。</p> <p>看護実践の場での学びは学生の学習に大きく影響することから、臨地実習場と協力をして学習の環境を整えようとしている。現在の社会情勢から病院での実習は困難な学校が多い中実施できている。今後も指導者と教員がお互いに協力して学生にとって学びの多い学習となるように、それぞれの役割の確認や環境などの調整を行い、進めていきたい。また実践の場での学習内容は学生のレディネスをふまえて教員が臨地実習場に明確に伝えていくことも大切となると考える。授業と実習がつなげて考えられるように進めていきたい。</p> <p>看護学としての妥当性は、国家試験の合格率も高く、あると判断できる。新カリを実践するにあたり、各科目ごとの関連性は考えたつもりであったが、実践ではなかなか領域を超えて考え授業展開まで進められていない。今後は、領域間でもほかの授業とどのような関係にあるのかを明確にし、不必要な重複をなくし、必要なところが教授できているのかの確認を行っていく必要があると考える。</p> <p>学習の動機付けや授業展開では、授業内容は学生の状況に合わせて変更していくことも大切であるため、それぞれが授業開始時や開講時に動機付けを行い、授業展開予定を伝えていくようにしている。しかし、学生の学習が発展するための学習支援まで明確にできておらず、個々の教員が対応している部分も多くあるため、今後は学生の状況に合わせて工夫している部分を共有できるように、環境を整え、発展していけるように進めていく。</p> <p>評価方法は、講義に関しては試験の実施と学生へのアンケート実施、教育目標に関しては学生へのアンケートと関係者会議などで実施している。その評価に基づいてそれぞれが改善していこうと努力している。また、単位認定の評価基準は明確になっている。しかし現在は、実施した試験は学生に公開しておらず、学生が実施した試験からフィードバックし学習を行えるように方法を考える必要がある。今後は学生が自らの学習の経過や成果を自ら認識し、主体的に学習し続けられるように公平性への配慮も行い、学生が自己の学習活動に活用できるように進めていく。カリキュラム改正により教育課程の整合性は明確になってきているが、毎年変わる講師もいるため、常に内容の確認と学生の評価を取り入れる必要がある。</p>						

	(組織体制)	R3評価	R4評価	R4平均	評価		
経 営 ・ 管 理 ・ 過 程	1. 管理者は教育理念・目的・教育課程、管理運営についての考え方を明示している。	2.8	2.94	2.81	2.75		
	2. 組織体制が明確であり組織職員の意思が反映できるシステムが整っている。	2.7	2.81				
	3. 教職員の構成と任用、資質向上についての考え方と対策は、教育理念・目的との整合性がある	2.6	2.69				
		(財政基盤)	R3評価	R4評価		R4平均	
	4. 財政基盤を確保することの考え方は、教育の質向上に繋がっている。	2.7	2.81	2.78			
	5. 教職員の観点からの意見は、経営に反映できるようになっている。	2.5	2.75				
		(施設設備の整備)	R3評価	R4評価		R4平均	
	6. 教育環境の整備計画を立案し、実施している。	2.5	2.56	2.62			
	7. 医療・看護の発展の変化に合わせて、専門職教育に必要な整備をしている。	2.7	2.69				
	8. 学生・教職員が円滑に学び、職務遂行できる施設設備を整備している。	2.3	2.63				
		(学生生活の支援)	R3評価	R4評価		R4平均	
	9. 学生が学修を継続できる支援体制を整え、助けになっている。	2.7	2.81	2.81			
		(養成所に関する情報提供)	R3評価	R4評価		R4平均	
	10. 教育・学習活動に関する情報提供を保護者等に行い、協力を得ることに繋がっている。	2.8	2.75	2.88			
	11. 看護師養成所としての存在をアピールする広報活動を行っている。	2.8	3.00				
		(養成所の将来構想)	R3評価	R4評価		R4平均	
	12. 将来構想との整合性をもって、計画立案している	2.5	2.69	2.69			
		(自己点検・自己評価)	R3評価	R4評価		R4平均	
	13. 自己点検・自己評価の目的を理解し、体制を整え改善に繋がるよう機能している。	2.7	2.81	2.81			
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>教育理念・目的・目標に関しては、便覧に明記し考え方を明示できている。組織体制・財政基盤に対しても意思決定機関や意思決定システムの明確な規定やシステムが周知していくことで理解は深まってきた。今後も周知していくとともに学習・教育の質の維持・向上につながるよう柔軟に再構築をしていくようにする。</p> <p>施設整備に関しては、コロナ禍で環境の調整が必要であると考え、多くの改修を行っている。ハード面での変更にはお金も時間もかかるが、学生および教職員の活動が安全かつ快適になるように優先順位を明確にして対応していく。今後は看護学校の在り方を考えつつ、先を見越して新たな教材の購入できるように、今後の医療・看護のニーズ、学生層の変化に対応していきたい。</p>							

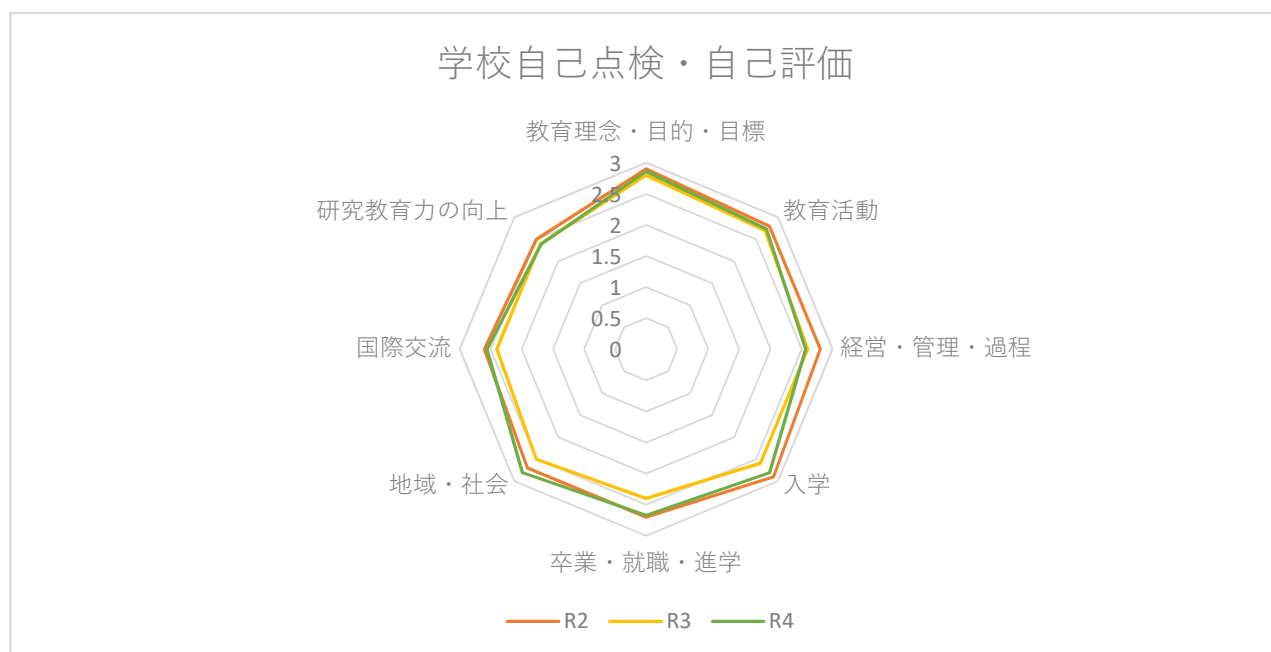
将来構成は、中・長期計画は島田市の連絡調整委員会で行っている。今後の看護学校の在り方を考えていく必要があるとのご意見もいただいているため、計画的に行っていきたい。短期計画については、運営計画と共に結果から評価まで行っているため今後も継続していく。今後は必要な情報はカリキュラム運営や授業実践にフィードバックしていくことができるよう早めに伝達していく必要がある。

項目	評価項目	R3評価	R4評価	R4平均	評価
入学	1. 教育理念・目的との一貫性をもって入学選抜を考え、分析・検証している。	2.6	2.81	2.81	2.5
項目	評価項目	R3評価	R4評価	R4平均	
卒業・就職・進学	1. 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	2.8	2.94	2.67	
	2. 卒業時の到達状況、就職・進学状況について分析し、教育理念・目標との整合性がある。	2.5	2.94		
	3. 卒業生の就職先との情報を把握し、問題を明確にしている。	2.4	2.63		
	4. 卒業生の活動状況を分析し、教育理念・目的・目標・授業に活用している。	1.9	2.19		
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>入学に関しては状況や推移を分析しているため、今後も社会情勢に対応していけるように継続していく。卒業時の到達に関してはアンケートを実施し把握している。また、島田市総合医療センター就職者の状況は把握しているが、分析などが十分に行えていない。今後は卒業後の状況に関しては、学校としてどう情報を収集しカリキュラムに活かしていくのかを考えていきたい。</p>					

項目	評価項目	R3評価	R4評価	R4平均	評価
地域・社会	1. 社会との連携に向けて、地域社会への貢献を組織的に行っている。	2.4	2.69	2.81	3
	2. 地域社会へのニーズを把握し、地域へ情報発信する手段をもっている。	2.5	2.81		
	3. 地域の特徴を把握し、養成所の学習・教育活動に取り入れている。	2.7	2.94		
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>カリキュラム改正により、地域のニーズを把握できるように授業の中でも地域を意識して教授を始めているため、評価としてもよくなっている。今後は地域・在宅看護論だけではなく、各領域でどのように取り入れているのかを確認し話し合っていく必要があると考える。また、地域への貢献として行ったボランティアに関しては学生からも好評であったため、今後も率先して地域と関わって生きるように学校全体として組織立てていきたい。</p>					

項目	評価項目	R3評価	R4評価	R4平均	評価
国際交流	1. 国際的視野を広げるための授業科目を設定し、国際的視野を広げるための環境を整えている。	2.5	2.69	2.56	2.6
	2. 海外からの看護に就くことを希望する学生の受け入れ体制を整えている。	2.3	2.44		
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>授業科目の設定を行い、受け入れ体制や希望学生に対する対応は現在の世情の中でできることは行っている。しばらくは実際には交流や受け入れなどない状況の中で進めていくと考えられるため、どう明示したらわかりやすいのかも考えていく。</p>					

項目	評価項目	R3評価	R4評価	R4平均	評価
研究教育力の向上	1. 教育の研究活動を保証し、助言・検討・支援し合う体制を整えている。	2.2	2.17	2.39	2.4
	2. 教員が専門性を発揮できるよう科目・時間を配分し、授業準備がとれる体制を整えている。	2.3	2.42		
	3. 教育課程の実践者である教員が成長できるよう、自己研鑽・相互研鑽のシステムを整えている。	2.7	2.58		
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>今年度は、前期の評価から各教員が教育の研究活動を行えるような方法を考えていった。しかし、なかなか実践する時間の確保が難しいのが現状であった。今後も研究活動が行えるような時間的・財政的・環境的介入を行っていく。新しい分野のことはいろいろな場で数人での協力体制はとっているが、まだまだそれぞれで動いている領域もあるため、今後は全員がどこかに属して考えていけるようにしていく。また、お互いの成長のために発展的な話し合いができるよう支援していく。しかし、時間の制限があるのも現実で、個人が時間管理を行い自分で時間を作る努力をしたり、心身の健康維持ができるような状況にしていくことも必要である。今年度から教務専用の事務が配置されたが、業務内容を明記していても伝達する時間がとれない状況もあった。今後は少しずつでも依頼する業務を増やし、専任教員の役割の中に研究活動を行える時間の確保につなげられるようすすめていく。</p>					



	R1	R2	R3	R4
教育理念・目的・目標	2.7	2.9	2.8	2.9
教育活動	2.6	2.8	2.7	2.7
経営・管理・過程	2.6	2.8	2.6	2.6
入学	3	2.9	2.6	2.8
卒業・就職・進学	2.7	2.7	2.4	2.7
地域・社会	2.4	2.7	2.5	2.8
国際交流	2.5	2.6	2.4	2.6
研究教育力の向上	2.2	2.5	2.4	2.4

学校関係者評価委員会総評

・教育理念・目的・目標、教育活動の内容に対する意見はなかった。試験の返却回収方法について学校側の悩みを伝えると、学生が学習成果をフィードバックし効果的な学びに繋がるよう今後も考えてほしいという意見があった。

経営管理・過程では、学校の将来構想について島田市の病院に必要な学校ということだけでなく、地域医療に必要な人材を育成する機関としての意味合いを考え将来計画を立てていただきたい。さらには地域と病院の連携や島田市の保健医療福祉全体のレベルアップも見据え、単なる病院就職のための看護師確保とは考えず、この看護学校の存在意味を見出してほしい。との意見が出た。

地域・社会では、学校から地域を知る試みとして、互助の一環としてボランティアを2年生全員に体験してもらったこと等を紹介し、地域・在宅に求められていることや人々の暮らしの理解に繋げていることを話し理解を得た。

研究・教育力向上については、教務事務を上手に活用し、研究活動を行える時間の確保と同時に、しっかりと学生と向き合える時間を確保してほしいという意見が出た。また、実習記録で挫折する学生もいるため、学習形態も考え学生を取りこぼさない工夫も考えてほしいと話された。一方では、ケーススタディ発表を聞き、2年生でここまでまとめ上げるには、学生の努力はもとより、教員の関わりはすごいと感じた。地域医療に貢献できる看護師を一人でも多く育て継続して努められるよう学校と病院の連携がさらに必要と話された。就職した後の情報を収集し、どうカリキュラムに反映していくかが大切である。との意見もいただいた。

全体として、委員会では学校運営についてご理解と良い評価をいただいた。